

2023年度

北海道大学大学院文学院
修士課程

学 生 募 集 要 項

※新型コロナウイルス感染症対策のため、募集要項の記載とは異なる内容で試験を実施（オンライン方式での実施を含む）もしくは試験を延期又は中止する可能性があります。最新の情報は北海道大学大学院文学院ウェブサイトに掲載しますので、定期的に確認するようお願いいたします。

2022年 5 月

2023年度北海道大学大学院文学院 修士課程学生募集要項

北海道大学大学院文学院には、人文学、人間科学の2専攻があり、それぞれ下記の講座及び研究室から構成されている。募集は、専攻を単位として、志望する研究室ごとに試験が実施される。

専攻	講座	研究室
人文学専攻	哲学宗教学	哲学倫理学
		宗教学インド哲学
	歴史学	日本史学
		東洋史学
		西洋史学
		考古学
		文化人類学
	文化多様性論	芸術学
		博物館学
		欧米文学
		日本古典文化論
		中国文化論
		映像・現代文化論
	言語科学	言語科学
人間科学専攻	スラブ・ユーラシア学	スラブ・ユーラシア学
	アイヌ・先住民学	アイヌ・先住民学
	心理学	心理学
	行動科学	行動科学
	社会学	社会学
	地域科学	地域科学

なお、本学院の修士課程は、大学院設置基準にいう博士前期2年の課程に相当する。

目次

教育研究上の目的及びアドミッションポリシー	1
《一般入試》	4
《外国人留学生特別入試》	11
《社会人特別入試》	19
各入試共通	23
・各研究室における専門分野 ・出願上の注意 ・出願書類の請求 ・過去の試験問題 ・入学手続 ・長期履修制度について ・個人情報の取り扱いについて ・入学試験に関する問い合わせ先 ・入学試験成績等の開示について ・海外からの検定料支払方法について ・その他	
別記1～4	28
・出願資格審査 ・出願書類【研究室別の所定課題等】 ・オンラインで受験する方へ ・2023年2月試験：研究室別試験案内	

教育研究上の目的及びアドミッションポリシー

1. 本学院の教育研究上の目的

本学院は、人文科学の諸領域において高度の専門的な教育研究を行うことにより、「ことば」に対する感受性及び論理的な思考力、総合的な判断力等を有する人材の育成を図るとともに、国際的に卓越した創造的な研究者を養成し、及びその資質の向上を図ることを目的とする。

(1) 人文学専攻

人文学専攻は、哲学宗教学、歴史学、文化多様性論、スラブ・ユーラシア学、アイヌ・先住民学、表現文化論、言語科学の7講座からなる。哲学宗教学講座には哲学倫理学、宗教学インド哲学の各研究室が、歴史学講座には日本史学、東洋史学、西洋史学、考古学の各研究室が、文化多様性論講座には文化人類学、芸術学、博物館学の各研究室が、表現文化論講座には欧米文学、日本古典文化論、中国文化論、映像・現代文化論の各研究室がそれぞれ含まれ、多岐にわたる学問領域を対象としている。

哲学宗教学講座は、経済と政治のグローバル化が進展する中で、価値観の対立と衝突も生まれている現代社会において、人間の在り方について根源的な問を発しつつ、その間に果敢に答えようとする深い学識を培う分野である。歴史学講座、文化多様性論講座、スラブ・ユーラシア学講座、アイヌ・先住民学講座は、他者と共感する真摯な姿勢と本質を見抜き相対化する批判精神を必要とする、広義の異文化を対象とする分野であり、古典を含む文献読解の方法、ヨーロッパ、アジア及び北方地域を含む多様な言語の修得、現地調査を含むデータ収集とその処理・分析方法、物質・精神にまたがる異文化へのアプローチ、地域や民族がかかえる現代的課題への視野、等について学際的・総合的な教育研究を行う。表現文化論講座は、多様な言語で記された文学・思想を対象とする日本文学、英米・英語圏文学、フランス文学、西洋古典学、中国文学、中国語学、中国思想、さらには映像論、批評理論、文化批評を対象とする視覚メディア文化や言語表現文化の教育研究が含まれる。言語科学講座は、英語学、ドイツ語学・ゲルマン語学、フランス語学・ロマンス語学、ロシア語学、国語学、日本語学など個別の言語を対象とする分野と言語理論を扱う言語学からなる。

本専攻においては、文献資料や先行研究から得られる知識はもとより、ときにはみずからフィールドへと出向いて異文化を体感する行動力も求められる。そのような自己と他者との対話を通して、文化の多様性と共通性を学び、過去と現在、中心と周縁を有機的に結びつけて世界の総体を捉え直すことのできる、バランスのとれた人材の育成を目指している。

本専攻の目的は、上記の多様な領域における個別的教育研究、並びに諸分野を複合的に横断する領域的教育研究を通して専門的学識と幅広い教養を合わせ持つ学生を育成し、中等・高等教育機関、博物館・資料館、国際交流機関やIT、マスメディア等、官公庁や企業のさまざまな分野で活躍できる人材を社会に送り出すとともに、創造性豊かな優秀な研究者の育成を目指している。また海外の研究者を招いて講演会、研究会等を積極的に行い、学生に海外の研究者と接する機会を提供するとともに、学生の海外派遣を含む研究教育の国際化に取り組み、国際的な視点をも身につけた人材の育成を目指している。

(2) 人間科学専攻

人間科学専攻は、心理学、行動科学、社会学、地域科学の4講座からなる。各講座には同じ名称の研究室がおかれ、1講座1研究室の体制となっている。

本専攻は心理学講座(認知心理学、認知科学、実験心理学)、行動科学講座(社会心理学、社会環境と行動、文化と心理など行動科学全般)、社会学講座(社会学理論、社会構造と社会変動、社会集団)、地域科学講座(地域社会学、人文地理学、社会生態学)からなり、実験、コンピュータ・シミュレーション、社会調査、聞き取り調査、フィールドワークなど多様な方法論を用い、人間と社会の理解に向けた科学的・実証的なアプローチを行っている。

本専攻の目的は、まず、学生がそれぞれのディシプリンを修得した上で、専攻に共通の授業を通して微視的及び巨視的な観点を獲得すること、また国際学術誌への投稿、国際学会での発表、国内外の研究交流等を通して、大学や様々な研究機関において国際的水準に立って研究できる研究者を育成することである。さらに本専攻は、官公庁、企業等に就職し、教育、医療、IT、マスメディア等の幅広い領域で活躍できる高度専門家の養成を目指している。

2. アドミッションポリシー

学院の理念

北海道大学大学院文学院は、グローバル化・情報化が進展する中で、従来の価値観が変化しつつある現代にあって、そこに生きる人間と人間が創り出す社会や文化の本質を学ぶことができる大学院教育を提供し、人文社会科学諸分野における専門的知識と研究方法を身に付け、社会の様々な領域において活躍できる人材を育成する。

教育目標

全国屈指の多様な研究分野と豊富な教員スタッフを擁する本学院は、学部での学修の成果をさらに向上・発展させ、徹底した少人数教育を通じて、個別の研究分野を深く追究し、現代社会のさまざまな問題に専門的な視点をもって取り組むことのできる人材を育成することを目標とする。

人文学専攻

専攻の理念

北海道大学大学院文学院人文学専攻は、思想、文化、歴史、言語、文学、地域研究等を教育研究の対象とし、これらの個別領域、さらにそれらを横断する領域に関して、深い専門知識並びに高い問題解決能力を身につけ、その成果を社会における様々な分野で生かすことのできる学生を求める。

〈修士課程〉

求める学生像

北海道大学大学院文学院人文学専攻修士課程は、以下に示す目標を達成する意志をもつ学生を求める。

- ・人文学に属する様々な研究領域における考え方や方法論を広く学びながら、専門分野に関する文献を正確に解読できる言語運用能力と、それをもとに問題を発見し分析する能力を身につける。
- ・専門分野の研究に必要な調査を行い、そこから得られるデータを的確に処理し、分析できる能力を身につける。
- ・国際的に通用するコミュニケーション能力をもち、専門知識・技術や考察力等を生かして社会で活躍できる。

そのために、入学希望者には、専門分野に関する基礎学力及び語学力並びに研究遂行に必要なコミュニケーション能力を養っておくことが期待される。

入学者選抜の基本方針

(1) 一般入試

専攻の理念並びに課程の求める学生像に相応しい資質を有しているかを判断するため、専門試験及び口述試験その他の結果並びに出願書類の内容によって、選抜を行う。このうち、専門試験には、各専門分野における研究遂行に必要な基礎知識や表現力等の評価が含まれ、研究遂行に必要な語学力等の評価を含めることがある。口述試験その他では、研究遂行に必要な論理的な思考力やコミュニケーション能力等を評価するが、研究遂行に必要な語学力等の評価も含むことがある。

(2) 外国人留学生特別入試

専攻の理念並びに課程の求める学生像に相応しい資質を有しているかを判断するため、専門試験及び口述試験その他の結果並びに出願書類の内容によって、選抜を行う。このうち、専門試験には、各専門分野における研究遂行に必要な基礎知識や表現力等の評価が含まれ、研究遂行に必要な語学力等の評価を含めることがある。口述試験その他では、研究遂行に必要な論理的な思考力やコミュニケーション能力等を評価するが、研究遂行に必要な語学力等の評価も含むことがある。

(3) 社会人特別入試

専攻の理念並びに課程の求める学生像に相応しい資質を有しているかを判断するため、専門試験及び口述試験その他の結果並びに出願書類の内容によって、選抜を行う。このうち、専門試験には、各専門分野における研究遂行に必要な基礎知識や表現力等の評価が含まれ、研究遂行に必要な語学力等の評価を含めることがある。口述試験その他では、研究遂行に必要な論理的な思考力やコミュニケーション能力等を評価するが、研究遂行に必要な語学力等の評価も含むことがある。

人間科学専攻

専攻の理念

北海道大学大学院文学院人間科学専攻は、個体としての人間やそれによって構成される集団、社会、地域を教育研究の対象とし、これらの諸要素間の相互関係を総合的に解明するため深い専門知識並びに高い問題解決能力を身につけ、その成果を社会における様々な分野で生かすことのできる学生を求める。

〈修士課程〉

求める学生像

北海道大学大学院文学院人間科学専攻修士課程は、以下に示す目標を達成する意志を持つ学生を求める。

- ・人間科学の基礎分野のみでなく、応用分野まで学んだ上で、人間個人や集団に関する人文・社会科学的な知識と研究能力を身につける。
- ・専門分野の研究に必要な実験・調査を行い、そこから得られるデータを的確に処理し、分析できる能力を身につける。
- ・国際的に通用するコミュニケーション能力をもち、専門知識・技術や考察力等を生かして社会で活躍できる。

そのために、入学希望者には、専門分野に関する基礎学力及び語学力並びに研究遂行に必要なコミュニケーション能力を養っておくことが期待される。

入学者選抜の基本方針

(1) 一般入試

専攻の理念並びに課程の求める学生像に相応しい資質を有しているかを判断するため、専門試験及び口述試験その他の結果並びに出願書類の内容によって、選抜を行う。このうち、専門試験には、各専門分野における研究遂行に必要な基礎知識や表現力等の評価が含まれ、研究遂行に必要な語学力等の評価を含めることがある。口述試験その他では、研究遂行に必要な論理的な思考力やコミュニケーション能力等を評価するが、研究遂行に必要な語学力等の評価も含むことがある。

(2) 外国人留学生特別入試

専攻の理念並びに課程の求める学生像に相応しい資質を有しているかを判断するため、専門試験及び口述試験その他の結果並びに出願書類の内容によって、選抜を行う。このうち、専門試験には、各専門分野における研究遂行に必要な基礎知識や表現力等の評価が含まれ、研究遂行に必要な語学力等の評価を含めることがある。口述試験その他では、研究遂行に必要な論理的な思考力やコミュニケーション能力等を評価するが、研究遂行に必要な語学力等の評価も含むことがある。

(3) 社会人特別入試

専攻の理念並びに課程の求める学生像に相応しい資質を有しているかを判断するため、専門試験及び口述試験その他の結果並びに出願書類の内容によって、選抜を行う。このうち、専門試験には、各専門分野における研究遂行に必要な基礎知識や表現力等の評価が含まれ、研究遂行に必要な語学力等の評価を含めることがある。口述試験その他では、研究遂行に必要な論理的な思考力やコミュニケーション能力等を評価するが、研究遂行に必要な語学力等の評価も含むことがある。

《一般入試》

本学院は、修士課程の学生募集を下記の要領に従い、《一般入試》を前期(9月)と後期(2月)とに分けて2度行う。
入学志願者は、前期と後期のいずれか、又は両方を受験することができる。

I 出願

1. 専攻及び募集人員

人文学専攻	(前・後期)	71名	}	合計 90名
人間科学専攻	(前・後期)	19名		

2. 出願資格

- (1) 大学を卒業した者又は2023年3月までに卒業見込みの者
- (2) 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者又は2023年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は2023年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は2023年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は2023年3月までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は2023年3月までに修了見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者又は2023年3月までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)。
※旧大学令による大学、各省庁組織令・設置法による大学校等を卒業した者又は卒業見込みの者など
- (9) 下記に掲げる者のうち、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学院において認めた者
※出願は後期試験のみとする(別記1, 28頁参照)。
① 2023年3月までに、大学における在学期間が3年以上となる者
② 外国において学校教育における15年の課程を修了した者又は2023年3月までに修了見込みの者
③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、その外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は2023年3月までに修了見込みの者
- (10) 本学院において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成13年4月1日以前に出生した者(別記1, 28頁参照)
※短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者や外国大学日本分校等修了者など大学卒業資格を有していない者が対象

3. 出願資格審査

「2.出願資格」の(9)、(10)により出願する者は、別記1(28頁)により必要書類を提出すること。
「大学教育修了までの学校教育の課程が15年である国において大学教育を修了した者」は、出願資格審査が必要となる可能性があるため、事前に本学院に申し出て指示を受けること。提出期限(28頁参照)に間に合うよう余裕を持って申し出ること。

4. 出願書類

出願書類等	備 考
☐ 入学願書 ☐ 受験票・写真票 ☐ 住所シール (本要項に綴じ込みの用紙)	入学願書及び受験票・写真票に、応募する専攻名、志望する研究室名を記入すること。 海外在住者は「住所シール」の提出不要。
☐ 成績証明書(コピー不可)	出身大学(学部)等長の発行するもの。大学に編入学をしている場合は、編入学前の大学の成績証明書も提出すること。本学文学部既卒者は提出不要(卒業見込みの者は添付すること)。
☐ 卒業(見込)証明書又は学位授与証明書 (いずれもコピー不可)	出身大学(学部)等長の発行する卒業(見込)証明書又は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が発行する学士の学位授与証明書(授与見込みの場合は、短期大学長又は高等専門学校長が発行する学位授与申請(予定)証明書)。本学文学部出身者は提出不要。 中華人民共和国(香港・マカオ特別行政区を除く)の大学を卒業、又は卒業見込みの者については、「外国人留学生特別入試」の出願書類欄の記載に従い、書類を提出すること。
☐ 受験票送付用封筒 (本要項に綴じ込みの封筒)	本学院所定の封筒に354円分の切手を貼付し、住所、氏名、郵便番号を記載のこと。 海外在住者は提出不要。
☐ 検定料 30,000円 (本要項に綴じ込みの払込書) ※既納の検定料は、以下の場合を除き返還できない。 ①出願しなかった場合 ②誤って二重に払い込んだ場合 【返還方法の問い合わせ先】 北海道大学文学事務部 教務担当 (011)706-3005, 3004	①本学所定の払込書の※欄に、志願者本人の住所・氏名(漢字、フリガナ)、電話番号を黒のボールペンで正確に記入して、必ず日本国内の銀行(ゆうちょ銀行を含む。)窓口で振り込むこと。 ATM(現金自動預払機)は使用不可。 ②「振込金(兼手数料)受領書」及び「検定料受付証明書」を銀行の窓口から受け取る際には、必ず「受付局日附印」を確認すること。「受付局日附印」が押印されていないと願書は受理できない。 ③「受付局日附印」が押印された「検定料受付証明書」を検定料受付証明書貼付台紙の所定の欄に貼り付けて提出すること。 ④「振込金(兼手数料)受領書」及び「検定料受付証明書」は無くさないよう注意すること。 ※海外在住者は、ネット出願システムにより、クレジットカード等による支払いが可能です(※検定料に加えて事務手数料 500 円がかかります)。希望者は27頁に記載の「海外からの検定料支払方法について」を確認し、申し込んでください。
☐ 研究計画書	A4判(任意の様式、クリップ止め)を使用し、以下①、②を合わせて3,000～4,000字で述べたもの。 ①本学院を志望する理由 ②入学後の研究計画及び修士修了後の抱負
☐ 卒業論文等(コピー)	卒業論文又はそれに代わる研究論文がある場合は、そのコピーをクリップ止めして提出すること。 ①卒業論文(コピー)等には、必ず氏名を記入すること。 ②大学院において修士論文を作成した者は、卒業論文(コピー)に代えて修士論文(コピー)を提出することができる。 ③卒業論文又はそれに代わる研究論文が日本語又は英語以外の言語で執筆されている場合、日本語又は英語で作成した要約を添付すること。分量はA4判1～2枚程度とする。
☐ 研究室別の所定課題等 ※後期試験(2023年2月実施)の出願者のみ提出	後期試験の受験者は、別記2に示す、研究室ごとに定める課題等を提出すること。また、別記4の「その他受験者への連絡事項」も参照の上、該当する書類の提出や必要事項の追記をすること。(前期試験(2022年9月実施)の出願者は提出不要)

5. 出願期間及び提出先

(1) 出願期間

【前期試験】2022年7月21日(木)から7月28日(木)まで

【後期試験】2023年1月4日(水)から1月10日(火)まで

持参の場合:受付時間は平日午前9時から午後5時まで。

郵送の場合:上記期間内に**必着**のこと。海外在住者の場合も必着。**※電子媒体での提出は認められません。**

災害や交通事情等による配達遅延リスクを考慮のうえ発送すること。

(2) 提出先

北海道大学文学事務部教務担当(〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目)

出願書類を郵送する場合には、封筒の表に「大学院入学願書在中」と朱書きし、書留郵便とすること。

申し込みフォームについて

上述の出願書類の提出に加えて、文学院ウェブサイト掲載の「申し込みフォーム」へ入力すること。
申し込みフォームには以下の QR コード又は URL からアクセスする。

【前期試験】



【後期試験】



(URL <https://forms.gle/qVWuKMEpbJvqLK6N9>)

(URL <https://forms.gle/GT3e2BZXy2XAcR4T7>)

前期試験は6月24日(金)、後期試験は11月18日(金)までに受付開始とする予定なので、出願期日までに入力すること。申し込みフォームへの入力及び検定料納入後、出願書類を出願期間内(必着)に提出(郵送又は持参)することで出願にかかる手続きが完了する。

Ⅱ 入学試験

6. 入学試験期日及び場所

(1) 試験期日

【前期試験】 2022年9月3日(土)	専門試験 午前9時00分から午前11時00分まで 口述試験その他 (7. 選抜方法(2)①参照)
【後期試験】 2023年2月4日(土)	口述試験その他 午前9時00分以降 ※2月4日の試験に先立ち、第1次選考(書類選考)を実施する。

(2) 場 所 【前期試験 (2022年9月)】

北海道大学大学院文学院(札幌市北区北10条西7丁目)

※試験当日の集合時刻及び集合場所については受験票送付時に通知する。

【後期試験 (2023年2月)】

オンラインで実施

※オンラインでの受験に必要な情報(Zoomのアクセスコード、集合時間等)については受験票送付時に通知する。

受験に先立ち、別記3及び別記4を参照の上、受験に必要な環境等を整えておくこと。

7. 選抜方法

(1) ①前期試験

専門試験、口述試験その他の結果並びに出願書類を総合して合格者を決定する。

②後期試験

口述試験その他の結果及び出願書類を総合して合格者を決定する。

第1次選考(書類選考)と第2次選考(オンライン口述試験等)を実施する。

第1次選考: 出願書類による書面審査を実施

第2次選考: 第1次選考通過者に対して、「口述試験その他」を実施

後期試験においては、口述試験その他の中で、専門分野に関する内容(専門試験に相当する内容)も問う。

なお、第1次選考を通過した者のみ、第2次選考(オンライン口述試験等)を受験できる。

また、第1次選考を通過できず、第2次選考の対象にならなかった者についても、検定料の払戻しは行わない。

(2)出題形式等

①前期試験:専門試験と口述試験その他の出題形式・選択方法

人文学専攻

研究室	専 門 試 験		口述試験その他
	試験科目	出 題 範 囲	
哲学倫理学	哲学倫理学	哲学, 倫理学 論述形式問題: 哲学, 倫理学から各々1問ずつ計2問が出題される。このうちから1問を選択する。 事項説明問題: 10問から5問を選択する。 外国語文献読解: 英語, ドイツ語, フランス語から, 研究に必要な外国語を1つ選択する。	口述試験 13:30～
宗教学インド哲学	宗教学インド哲学	宗教学, インド哲学及び仏教学 論述形式問題: 宗教学, インド哲学, 仏教学から各々1問ずつ計3問が出題される。このうちから1問を選択する。 事項説明問題: 12問から4問を選択する。	口述試験 13:30～ 口述試験のなかで, 専門に関わる, 外国語(主に英語)の文章を読み質問に答えることを求める場合がある(辞書持込み不可)。
日本史学	日本史学	日本史学	口述試験 13:30～
東洋史学	東洋史学	東洋史学	口述試験 13:30～ 口述試験では, 専門に関わる文献を読み質問に答えることを求める場合がある。
西洋史学	西洋史学	西洋史学	外国語 13:30～14:45 口述試験 15:15～ 外国語は英語, ドイツ語, フランス語のうちから研究に必要な言語を1つ選択する。辞書持込み可(電子辞書は不可)。
考古学	考古学	考古学	口述試験 13:30～
文化人類学	文化人類学	文化人類学	口述試験 13:30～
芸術学	芸術学	芸術理論, 芸術史 論述形式問題: 芸術理論, 芸術史から1問ずつ計2問が出題される。このうちから1問を選択する。 事項説明問題: 10問から5問を選択する。 外国語文献読解(英語)	口述試験 13:30～
博物館学	博物館学	博物館研究, 文化財研究 論述形式問題: 博物館研究, 文化財研究から1問ずつ計2問が出題される。このうちから1問を選択する。 事項説明問題: 12問から5問を選択する。	口述試験 13:30～
欧米文学	欧米文学	英米・英語圏文学, フランス文学, 西洋古典学 →上の中から志望する分野に応じて1つを選択する。	口述試験 13:30～
日本古典文化論	日本古典文化論	国語・国文学 国語史・国文学史, 古典(漢文を含む。)読解	口述試験 13:30～
中国文化論	中国文化論	中国思想(漢文・中国語文・日本漢学を含む。), 中国文学及び中国語学(中国語文献読解等を含む。) →「中国思想」, 「中国文学及び中国語学」のうちから1つを選択する。	口述試験 13:30～ 口述試験のなかで, 専門に関わる用語や文献の説明を求める場合がある(辞書持込み不可)
映像・現代文化論	映像・現代文化論	映像・表象文化, 日本近現代文学・思想 →上の中から, 主に志望する分野に応じて選択する。	口述試験 13:30～

一般入試

言語科学	言語科学	言語学, 国語学, 日本語学, 英語学, ドイツ語学・ゲルマン語学, フランス語学・ロマンス語学, ロシア語学・スラブ語学 →上の中から志望する分野に応じて1つを選択する。	口述試験 13:30～
スラブ・ユーラシア学	スラブ・ユーラシア学	スラブ・ユーラシア社会論, スラブ・ユーラシア文化論 論述形式で, 複数の問題から2問を選択する。	外国語 13:30～14:45 口述試験 15:15～ 外国語は英語2題, ロシア語2題のうちから任意の2題を選択し, 日本語訳を行う。辞書持込み可(電子辞書は不可)。
アイヌ・先住民学	アイヌ・先住民学	アイヌ・先住民学 アイヌ・先住民に関する文化人類学, 言語学, 考古学, 歴史学, 博物館学, 文化遺産学 論述形式で, 複数の問題から1問を選択する。	口述試験 13:30～

人間科学専攻

研究室	専門試験		口述試験その他
	試験科目	出題範囲	
心理学	心理学	心理学	英語文献読解等 13:30～14:45 口述試験 15:15～
行動科学	行動科学	行動科学	口述試験 13:30～
社会学	社会学	社会学(英語での解答を求めることがある)	口述試験 13:30～ (英語での質疑応答を含むことがある)
地域科学	地域科学	人文地理学, 社会生態学, 地域社会学 →「人文地理学」, 「社会生態学」, 「地域社会学」の問題のうちから, 一定数を選択する。	口述試験 13:30～

②後期試験: 口述試験その他の出題形式等

人文学専攻

研究室・専門分野	口述試験その他
哲学倫理学	・口述試験 口述試験では, 所定の事前課題(別記2), 研究計画書, 卒業論文もしくはそれに代わる研究論文についての質疑等を行う。
宗教学インド哲学	・口述試験 口述試験では, 専門知識に関わる事項説明問題を課す。また, 専門に関わる外国語の文章(主に英語)を読み質問に答えることを求める場合がある(辞書持込み不可)。
日本史学	・口述試験
東洋史学	・口述試験 口述試験では, 専門に関わる文献を読み質問に答えることを求める場合がある。
西洋史学	・口述試験 口述試験では, 専門分野に関わる外国語の文章を読み質問に答えることを求める場合がある(辞書持込み不可)。
考古学	・口述試験
文化人類学	・口述試験
芸術学	・口述試験 口述試験では, 専門知識に関わる問題を課す。また, 専門に関わる外国語の文章(主に英語)を読み質問に答えることを求める場合がある。
博物館学	・口述試験 口述試験では, 研究計画書に関する試問, 及び当該分野(博物館研究, 文化財研究)に関する基礎知識を確認する試問を行う。
欧米文学	・口述試験
日本古典文化論	・口述試験 口述試験では, 卒業論文もしくはそれに代わる研究論文・研究計画書・崩し字読解等に関する試問を行う。
中国文化論	・口述試験 ・口述試験その他において, 筆記による試験(辞書持込み可)を実施する。筆記形式の試験では文献読解・語句説明を課す。

映像・現代文化論	・口述試験 口述試験では、課題レポートの内容についても問う。
言語科学	・口述試験 口述試験では、言語学、国語学、日本語学、英語学、ドイツ語学・ゲルマン語学、フランス語学・ロマンス語学、ロシア語学・スラブ語学の中でいずれかの知識を問う。
スラブ・ユーラシア学	・口述試験 ・口述試験その他において、筆記による試験を実施する。筆記形式の試験では、英語2題、ロシア語2題のうちから任意の2題を選択し、日本語訳を行う。辞書持込み可(電子辞書は不可)。 ※出願書類として卒業論文を提出しない者は、研究計画書に参考文献などを掲載し、自身の研究したいことについてより詳細な説明を行うこと。
アイヌ・先住民学	・口述試験

人間科学専攻

研究室・専門分野	口述試験その他
心理学	・口述試験 ・口述試験その他において、筆記による試験を実施する。筆記形式の試験では英文読解、英作文、心理学の専門内容を問う試験を行う。
行動科学	・口述試験 口述試験では、卒業論文(もしくはそれに代わる最近の研究成果)と研究計画の内容、当該分野の専門知識、英語コミュニケーション能力、などを問う。
社会学	・口述試験 口述試験では、社会学の基礎知識に関して理解の度合いを確認する質問を行う。英語での質疑応答を含むことがある。
地域科学	・口述試験 口述試験では、人文地理学、社会生態学、地域社会学の専門知識を問う。

8. 合格者発表

【前期試験】2022年9月16日(金) 午後4時

【後期試験】2023年2月20日(月) 午後4時

合格者受験番号について文学院公用掲示板への掲示及び文学院ウェブサイトへの掲載を行うとともに、受験者宛、合否を郵送(海外在住者についてはメール)により通知する。電話による問い合わせには一切応じない。

なお、通知の到着は、5～6日後(宛先が日本国内の場合)になることがある。

9. 新型コロナウイルス感染症の影響による入試の変更等について

- (1) 入学試験を変更又は中止することがある。変更等を行う場合は、「前期試験」については6月24日(金)、「後期試験」については11月18日(金)までに決定し、本学院ウェブサイトで周知する予定である。ただし、新型コロナウイルス感染症の急速な感染拡大等により、上述の期日以降に変更を決定する場合がある。
- (2) 「前期試験」と「後期試験」の2回の試験実施を予定しているが、いずれかの試験を中止し、受験の機会が1回のみとなる可能性がある。
- (3) 2022年9月実施の前期試験については、試験実施方法を対面方式からオンライン方式に変更して実施する可能性がある。その場合には以下の取り扱いとなる見込みである。
 - ・第1次選考(書類選考)と第2次選考(オンライン口述試験等)で選抜をする。第1次選考では、出願書類に基づき、各専門分野における研究遂行に必要な基礎知識や表現力等を評価し、第1次選考を通過した者のみが、第2次選考(オンライン口述試験等)を受験できる。
 - ・第1次選考実施にあたり、追加の書類提出を求めることがある。
 - ・第2次選考の対象とならなかった場合にも、検定料の払い戻しは行わない。
- (4) 日本政府による入国制限等により、希望する時期に受験できなくなる可能性があるため、海外在住者は特に留意すること。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の影響で郵便に遅れが生じる地域がある。出願期間内に願書(原本)が届かなかった場合、受け付けることは出来ないため、早めに願書等を含む出願書類を取り寄せるとともに証明書類を揃え、期日までに届くように準備を進めること(特に海外在住者は留意すること)。

《外国人留学生特別入試》

本学院は、修士課程の学生募集を下記の要領に従い、《外国人留学生特別入試》を前期(9月)と後期(2月)とに分けて2度行う。入学志願者は、前期と後期のいずれか、又は両方を受験することができる。

I 出 願

1. 専攻及び募集人員

人文学専攻	(前・後期) 若干名
人間科学専攻	(前・後期) 若干名

2. 出願資格

下記による大学卒業等の資格を得た者で、国籍が日本以外にあり、かつ日本以外の高等学校等を卒業した者。

- (1) 大学を卒業した者又は2023年3月までに卒業見込みの者
- (2) 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者又は2023年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は2023年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は2023年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は2023年3月までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は2023年3月までに修了見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者又は2023年3月までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)。
※旧大学令による大学、各省庁組織令・設置法による大学校等を卒業した者又は卒業見込みの者など
- (9) 下記に掲げる者のうち、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学院において認めた者
※出願は後期試験のみとする(別記1, 28頁参照)。
① 2023年3月までに、大学における在学期間が3年以上となる者
② 外国において学校教育における15年の課程を修了した者又は2023年3月までに修了見込みの者
③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、その外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は2023年3月までに修了見込みの者
- (10) 本学院において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成13年4月1日以前に出生した者(別記1, 28頁参照)
※短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者や外国大学日本分校等修了者など大学卒業資格を有していない者が対象

3. 出願資格審査

「2. 出願資格」の(9)、(10)により出願する者は、別記1(28頁)により必要書類を提出すること。

「大学教育修了までの学校教育の課程が15年である国において大学教育を修了した者」は、出願資格審査が必要となる可能性があるため、事前に本学院に申し出て指示を受けること。提出期限(28頁参照)に間に合うよう余裕を持って申し出ること。

4. 出願書類

出願書類等	備 考
☐ 入学願書 ☐ 受験票・写真票 ☐ 住所シール (本要項に綴じ込みの用紙)	入学願書及び受験票・写真票に、応募する専攻名、志望する研究室名を記入すること。 海外在住者は「住所シール」の提出不要。
☐ 成績証明書(コピー不可)	出身大学(学部)等長の発行するもの。大学に編入学をしている場合は、編入学前の大学の成績証明書も提出すること。本学文学部既卒者は提出不要(卒業見込みの者は添付すること)。
☐ 卒業(見込)証明書又は学位授与証明書 (いずれもコピー不可)	出身大学(学部)等長の発行する卒業(見込)証明書又は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が発行する学士の学位授与証明書(授与見込みの場合は、短期大学長又は高等専門学校長が発行する学位授与申請(予定)証明書)。 外国の大学を卒業した場合は、卒業証明書に取得学位が記載されているもの。 本学文学部出身者は提出不要。 【重要】中華人民共和国(香港・マカオ特別行政区を除く)の大学を卒業、又は卒業見込みの者は、以下の書類を提出してください。 既卒者…a 卒業証明書(取得学位が記載されているもの)(コピー不可) b 学歴証書電子登録票(教育部学历证书电子注册备案表) c 卒業証書(毕业证书)及び学位証書(学位证书)のコピー 卒業見込者…a 卒業見込証明書(コピー不可) b オンライン在籍認証レポート(教育部学籍在线验证报告) 上記のうち、書類bは中華人民共和国教育部認証システム(中国高等教育学历证书查询 https://www.chsi.com.cn/xlcx/bgys.jsp)より取得してください。 また、提出時点でWeb認証の有効期限が15日以上残っていることを確認してください。
☐ 推薦書	出身大学の指導教員が作成したもの(任意の様式)。 本学文学部出身者(研究生を含む。)及び国費外国人留学生は提出不要。
☐ 外国籍であることを証明する書類	パスポート(在留資格の確認できる頁)のコピー又は在留カードのコピー等。
☐ 修学に必要な経済能力を証明する書類	本人名義の通帳(コピー)、残高証明書等(日本円で100万円程度)。 国費外国人留学生は提出不要。
☐ 国費外国人留学生証明書	国費外国人留学生であることの証明(該当者のみ提出)。
☐ 受験票送付用封筒 (本要項に綴じ込みの封筒)	本学院所定の封筒に354円分の切手を貼付し、住所、氏名、郵便番号を記載のこと。 海外在住者は提出不要。
☐ 検定料 30,000円 (本要項に綴じ込みの払込書) ※既納の検定料は、以下の場合を除き返還できない。 ①出願しなかった場合 ②誤って二重に払い込んだ場合 【返還方法の問い合わせ先】 北海道大学文学事務部 教務担当 (011)706-3005, 3004	①本学所定の払込書の※欄に、志願者本人の住所・氏名(漢字、フリガナ)、電話番号を黒のボールペンで正確に記入して、必ず日本国内の銀行(ゆうちょ銀行を含む。以下同じ。)窓口で振り込むこと。 ATM(現金自動預払機)は使用不可。 ②「振込金(兼手数料)受領書」及び「検定料受付証明書」を銀行の窓口から受け取る際には、必ず「受付局日附印」を確認すること。「受付局日附印」が押印されていないと願書は受理できない。 ③「受付局日附印」が押印された「検定料受付証明書」を検定料受付証明書貼付台紙の所定の欄に貼り付けて提出すること。 ④「振込金(兼手数料)受領書」及び「検定料受付証明書」は無くさないよう注意すること。 なお、国費外国人留学生からは徴収しない。 ※海外在住者は、ネット出願システムにより、クレジットカード等による支払いが可能です(※検定料に加えて事務手数料 500 円がかかります)。希望者は27頁に記載の「海外からの検定料支払方法について」を確認し、申し込んでください。
☐ 研究計画書	A4判(任意の様式、クリップ止め)を使用し、以下①、②を合わせて3,000～4,000字で述べたもの。 ①本学院を志望する理由 ②入学後の研究計画及び修士修了後の抱負

□卒業論文等(コピー)	卒業論文又はそれに代わる研究論文がある場合は、そのコピーをクリップ止めて提出すること。 ①卒業論文(コピー)等には、必ず氏名を記入すること。 ②大学院において修士論文を作成した者は、卒業論文(コピー)に代えて修士論文(コピー)を提出することができる。 ③卒業論文又はそれに代わる研究論文が日本語又は英語以外の言語で執筆されている場合、日本語又は英語で作成した要約を添付すること。分量はA4判1～2枚程度とする。
□研究室別の所定課題等 ※後期試験(2023年2月実施)の出願者のみ提出	後期試験の受験者は、別記2に示す、研究室ごとに定める課題等を提出すること。また、別記4の「その他受験者への連絡事項」も参照の上、該当する書類の提出や必要事項の追記をすること。(前期試験(2022年9月実施)の出願者は提出不要)

※上記以外に、次の書類を参考として提出することができる。

- ①出身大学の指導教員等又は日本語教育機関等の長が作成した日本語能力を証明する証明書
- ②財団法人日本国際教育協会「日本語能力試験」等の試験結果のコピー

5. 出願期間及び提出先

(1) 出願期間

【前期試験】2022年7月21日(木)から7月28日(木)まで

【後期試験】2023年1月4日(水)から1月10日(火)まで

持参の場合:受付時間は平日午前9時から午後5時まで。

郵送の場合:上記期間内に**必着**のこと。海外在住者の場合も必着。**※電子媒体での提出は認められません。**
災害や交通事情等による配達遅延リスクを考慮のうえ発送すること。

(2) 提出先

北海道大学文学事務部教務担当(〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目)

出願書類を郵送する場合には、封筒の表に「大学院入学願書在中」と朱書きし、書留郵便とすること。

申し込みフォームについて

上述の出願書類の提出に加えて、文学院ウェブサイト掲載の「申し込みフォーム」へ入力すること。
申し込みフォームには以下の QR コード又は URL からアクセスする。

【前期試験】



【後期試験】



(URL <https://forms.gle/qVWuKMEpbJvqLK6N9>) (URL <https://forms.gle/GT3e2BZXy2XAcR4T7>)

前期試験は6月24日(金)、後期試験は11月18日(金)までに受付開始とする予定なので、出願期日までに入力すること。申し込みフォームへの入力及び検定料納入後、出願書類を出願期間内(必着)に提出(郵送又は持参)することで出願にかかる手続きが完了する。

Ⅱ 入学試験

6. 入学試験期日及び場所

(1) 試験期日

【前期試験】 2022年9月3日(土)	専門試験 午前9時00分から午前11時00分まで 口述試験その他 (7. 選抜方法(2)①参照)
【後期試験】 2023年2月4日(土)	口述試験その他 午前9時00分以降 ※2月4日の試験に先立ち、第1次選考(書類選考)を実施する。

(2) 場 所 【前期試験(2022年9月)】

北海道大学大学院文学院(札幌市北区北10条西7丁目)

※試験当日の集合時刻及び集合場所については受験票送付時に通知する。

【後期試験(2023年2月)】

オンラインで実施

※オンラインでの受験に必要な情報(Zoomのアクセスコード、集合時間等)については受験票送付時に通知する。

受験に先立ち、別記3及び別記4を参照の上、受験に必要な環境等を整えておくこと。

7. 選抜方法

(1)① 前期試験

専門試験、口述試験その他の結果並びに出願書類を総合して合格者を決定する。

② 後期試験

口述試験その他の結果及び出願書類を総合して合格者を決定する。

第1次選考(書類選考)と第2次選考(オンライン口述試験等)を実施する。

第1次選考:出願書類による書面審査を実施

第2次選考:第1次選考通過者に対して、「口述試験その他」を実施

後期試験においては、口述試験その他の中で、専門分野に関する内容(専門試験に相当する内容)も問う。

なお、第1次選考を通過した者のみ、第2次選考(オンライン口述試験等)を受験できる。

また、第1次選考を通過できず、第2次選考の対象にならなかった者についても、検定料の払戻しは行わない。

(2) 出題形式等

①前期試験:専門試験と口述試験その他の出題形式・選択方法

人文学専攻

研究室	専門試験		口述試験その他
	試験科目	出題範囲	
哲学倫理学	哲学倫理学	哲学, 倫理学 論述形式問題: 哲学, 倫理学から各々1問ずつ計2問が出題される。このうちから1問を選択する。 事項説明問題: 10問から5問を選択する。 外国語文献読解: 英語, ドイツ語, フランス語から, 研究に必要な外国語を1つ選択する。	口述試験 13:30～
宗教学インド哲学	宗教学インド哲学	宗教学, インド哲学及び仏教学 論述形式問題: 宗教学, インド哲学, 仏教学から各々1問ずつ計3問が出題される。このうちから1問を選択する。 事項説明問題: 12問から4問を選択する。	口述試験 13:30～
日本史学	日本史学	日本史学	口述試験 13:30～
東洋史学	東洋史学	東洋史学	口述試験 13:30～ 口述試験では、専門に関わる文献を読み質問に答えることを求める場合がある。

西洋史学	西洋史学	西洋史学	外国語 13:30～14:45 口述試験 15:15～ 外国語は英語, ドイツ語, フランス語のうちから研究に必要な言語を1つ選択する。辞書持込み可(電子辞書は不可)。
考古学	考古学	考古学	口述試験 13:30～
文化人類学	文化人類学	文化人類学	口述試験 13:30～
芸術学	芸術学	芸術理論, 芸術史 論述形式問題: 芸術理論, 芸術史から1問ずつ計2問が出題される。このうちから1問を選択する。 事項説明問題: 10問から5問を選択する。 外国語文献読解(英語)	口述試験 13:30～
博物館学	博物館学	博物館研究, 文化財研究 論述形式問題: 博物館研究, 文化財研究から1問ずつ計2問が出題される。このうちから1問を選択する。 事項説明問題: 12問から5問を選択する。	口述試験 13:30～
欧米文学	欧米文学	英米・英語圏文学, フランス文学, 西洋古典学 →上の中から志望する分野に応じて1つを選択する。	口述試験 13:30～
日本古典文化論	日本古典文化論	国語・国文学 国語史・国文学史, 古典(漢文を含む。)読解	口述試験 13:30～
中国文化論	中国文化論	中国思想(漢文・中国語文・日本漢学を含む。), 中国文学及び中国語学(中国語文献読解等を含む。) →「中国思想」, 「中国文学及び中国語学」のうちから1つを選択する。	口述試験 13:30～ 口述試験のなかで, 専門に関わる用語や文献の説明を求める場合がある(辞書持込み不可)
映像・現代文化論	映像・現代文化論	映像・表象文化, 日本近現代文学・思想 →上の中から, 主に志望する分野に応じて選択する。	口述試験 13:30～
言語科学	言語科学	言語学, 国語学, 日本語学, 英語学, ドイツ語学・ゲルマン語学, フランス語学・ロマンス語学, ロシア語学・スラブ語学 →上の中から志望する分野に応じて1つを選択する。	口述試験 13:30～
スラブ・ユーラシア学	スラブ・ユーラシア学	スラブ・ユーラシア社会論, スラブ・ユーラシア文化論 論述形式で, 複数の問題から2問を選択する。 論述は日本語, 英語, ロシア語のいずれかで行うこと。	外国語 13:30～14:45 口述試験 15:15～ 外国語は英語, ロシア語のいずれかを選択し, 解答する。英語は日本語訳またはロシア語訳, ロシア語は日本語訳または英語訳を行う。 これらに加えて, 日本語の作文を行う。 辞書持込み可(電子辞書は不可)。 口述試験は基本的に日本語で行う。
アイヌ・先住民学	アイヌ・先住民学	アイヌ・先住民学 アイヌ・先住民に関する文化人類学, 言語学, 考古学, 歴史学, 博物館学, 文化遺産学 論述形式で, 複数の問題から1問を選択する。	口述試験 13:30～

人間科学専攻

研究室	専 門 試 験		口述試験その他
	試験科目	出 題 範 囲	
心理学	心理学	心理学	英語文献読解等 13:30～14:45 口述試験 15:15～
行動科学	行動科学	行動科学	口述試験 13:30～
社会学	社会学	社会学(英語での解答を求めることがある)	口述試験 13:30～ (英語での質疑応答を含むことがある)
地域科学	地域科学	人文地理学, 社会生態学, 地域社会学 →「人文地理学」, 「社会生態学」, 「地域社会学」の問題のうちから, 一定数を選択する。	口述試験 13:30～

②後期試験: 口述試験その他の出題形式等

人文学専攻

研究室・専門分野	口述試験その他
哲学倫理学	・口述試験 口述試験では, 所定の事前課題(別記2), 研究計画書, 卒業論文もしくはそれに代わる研究論文についての質疑等を行う。
宗教学インド哲学	・口述試験 口述試験では, 専門知識に関わる事項説明問題を課す。
日本史学	・口述試験
東洋史学	・口述試験 口述試験では, 専門に関わる文献を読み質問に答えることを求める場合がある。
西洋史学	・口述試験
考古学	・口述試験
文化人類学	・口述試験
芸術学	・口述試験 口述試験では, 専門知識に関わる問題を課す。また, 専門に関わる外国語の文章(主に英語)を読み質問に答えることを求める場合がある。
博物館学	・口述試験 口述試験では, 研究計画書に関する試問, 及び当該分野(博物館研究, 文化財研究)に関する基礎知識を確認する試問を行う。
欧米文学	・口述試験
日本古典文化論	・口述試験 口述試験では, 卒業論文もしくはそれに代わる研究論文・研究計画書・崩し字読解等に関する試問を行う。
中国文化論	・口述試験 ・口述試験その他において, 筆記による試験(辞書持込み可)を実施する。筆記形式の試験では文献読解・語句説明を課す。
映像・現代文化論	・口述試験 口述試験において, 課題レポートの内容についても問う。
言語科学	・口述試験 口述試験では, 言語学, 国語学, 日本語学, 英語学, ドイツ語学・ゲルマン語学, フランス語学・ロマンス語学, ロシア語学・スラブ語学の中でいずれかの知識を問う。
スラブ・ユーラシア学	・口述試験 ・口述試験その他において, 筆記による試験を実施する。筆記形式の試験では, 英語, ロシア語のいずれかを選択し, 解答する。英語は日本語訳またはロシア語訳, ロシア語は日本語訳または英語訳を行う。これに加えて, 与えられたテーマで日本語の作文を行う。辞書持込み可(電子辞書は不可)。 ※質疑応答は, 基本的に日本語で行う。 ※出願書類として卒業論文を提出しない者は, 研究計画書に参考文献などを掲載し, 自身の研究したいことについてより詳細な説明を行うこと。
アイヌ・先住民学	・口述試験

人間科学専攻

研 究 室	口述試験その他
心理学	・口述試験 ・口述試験その他において、筆記による試験を実施する。筆記形式の試験では英文読解、英作文、心理学の専門内容を問う試験を行う。
行動科学	・口述試験 - 口述試験では、卒業論文(もしくはそれに代わる最近の研究成果)と研究計画の内容、当該分野の専門知識、英語コミュニケーション能力、などを問う。
社会学	・口述試験 - 口述試験では、社会学の基礎知識に関して理解の度合いを確認する質問を行う。英語での質疑応答を含むことがある。
地域科学	・口述試験 - 口述試験では、人文地理学、社会生態学、地域社会学の専門知識を問う。

8. 合格者発表

【前期試験】 2022年9月16日(金) 午後4時

【後期試験】 2023年2月20日(月) 午後4時

合格者受験番号について文学院公用掲示板への掲示及び文学院ウェブサイトへの掲載を行うとともに、受験者宛、合否を郵送(海外在住者についてはメール)により通知する。電話による問い合わせには一切応じない。

なお、通知の到着は、5～6日後(宛先が日本国内の場合)になることがある。

9. 新型コロナウイルス感染症の影響による入試の変更等について

- (1) 入学試験を変更又は中止することがある。変更等を行う場合は、「前期試験」については6月24日(金)、「後期試験」については11月18日(金)までに決定し、本学院ウェブサイトで周知する予定である。ただし、新型コロナウイルス感染症の急速な感染拡大等により、上述の期日以降に変更を決定する場合がある。
- (2) 「前期試験」と「後期試験」の2回の試験実施を予定しているが、いずれかの試験を中止し、受験の機会が1回のみとなる可能性がある。
- (3) 2022年9月実施の前期試験については、試験実施方法を対面方式からオンライン方式に変更して実施する可能性がある。その場合には以下の取り扱いとなる見込みである。
 - ・第1次選考(書類選考)と第2次選考(オンライン口述試験等)で選抜をする。第1次選考では、出願書類に基づき、各専門分野における研究遂行に必要な基礎知識や表現力等を評価し、第1次選考を通過した者のみが、第2次選考(オンライン口述試験等)を受験できる。
 - ・第1次選考実施にあたり、追加の書類提出を求めることがある。
 - ・第2次選考の対象とならなかった場合にも、検定料の払い戻しは行わない。
- (4) 日本政府による入国制限等により、希望する時期に受験できなくなる可能性があるため、海外在住者は特に留意すること。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の影響で郵便に遅れが生じる地域がある。出願期間内に願書(原本)が届かなかった場合、受け付けることは出来ないため、早めに願書等を含む出願書類を取り寄せるとともに証明書類を揃え、期日までに届くように準備を進めること(特に海外在住者は留意すること)。

《社会人特別入試》

本学院は、修士課程の学生募集を下記の要領に従い、《社会人特別入試》を後期(2月)のみ実施する。

1 出 願

1. 専攻及び募集人員

人文学専攻 (後期) 若干名
人間科学専攻 (後期) 若干名

2. 出願資格

2-1 下記による大学卒業等の資格を得、その後 2023 年3月末日までに通算2年以上の社会経験(研究生及び大学院学生としての期間は含まない。)を有する者

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者(昭和 28 年文部省告示第5号)。

※旧大学令による大学、各省庁組織令・設置法による大学校等を卒業した者又は卒業見込みの者など

2-2 下記の各号のいずれかに該当する者で、2023 年3月末日までに在職者として2年以上の社会経験(常勤又はそれに準ずるものに限る。大学入学以前の在職者としての経験は含まない。)を有する者。ただし、大学に在籍しながら勤務している場合、大学での授業時間帯と勤務時間が重複しているときは、社会経験として認めない。

- (9) 大学を卒業した者又は 2023 年3月までに卒業見込の者
- (10) 本学院において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で平成 13 年4月1日以前に出生した者(別記1, 28 頁参照)

※短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業生や外国大学日本分校等修了者など大学卒業資格を有していない者が対象

3. 出願資格審査

「2. 出願資格」の(10)により出願する者は、別記1(28頁)により必要書類を提出すること。

「大学教育修了までの学校教育の課程が15年である国において大学教育を修了した者」は、出願資格審査が必要となる可能性があるため、事前に本学院に申し出て指示を受けること。提出期限(28頁参照)に間に合うよう余裕を持って申し出ること。

4. 出願書類

出願書類等	備 考
☐ 入学願書 ☐ 受験票・写真票 ☐ 住所シール (本要項に綴じ込みの用紙)	入学願書及び受験票・写真票に、応募する専攻名、志望する研究室名を記入すること。 海外在住者は「住所シール」の提出不要。
☐ 成績証明書(コピー不可)	出身大学(学部)等長の発行するもの。大学に編入学をしている場合は、編入学前の大学の成績証明書も提出すること。本学文学部既卒者は提出不要(卒業見込みの者は添付すること)。

社会人特別入試

☐ 卒業(見込)証明書又は学位授与証明書 (いずれもコピー不可)	出身大学(学部)等長の発行する卒業(見込)証明書又は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が発行する学士の学位授与証明書(授与見込みの場合は、短期大学長又は高等専門学校長が発行する学位授与申請(予定)証明書)。本学文学部出身者は提出不要。 中華人民共和国(香港・マカオ特別行政区を除く)の大学を卒業、又は卒業見込みの者については、「外国人留学生特別入試」の出願書類欄の記載に従い、書類を提出すること。
☐ 入学志望理由書	・A4判(任意の様式、クリップ止め)を使用し、以下①、②を合わせて2,000字以内で述べたもの。 ①社会活動の経験と本学院を志望する理由 ②入学後の研究計画及び修士修了後の抱負 ・卒業論文がある場合は、そのコピー(クリップ止め)をあわせて提出することができる。
☐ 受験票送付用封筒 (本要項に綴じ込みの封筒)	本学院所定の封筒に354円分の切手を貼付し、住所、氏名、郵便番号を記載のこと。 海外在住者は提出不要。
☐ 検定料 30,000円 (本要項に綴じ込みの払込書) ※既納の検定料は、以下の場合を除き返還できない。 ①出願しなかった場合 ②誤って二重に払い込んだ場合 【返還方法の問い合わせ先】 北海道大学文学事務部 教務担当 (011)706-3005, 3004	①本学所定の払込書の※欄に、志願者本人の住所・氏名(漢字、フリガナ)、電話番号を黒のボールペンで正確に記入して、必ず日本国内の銀行(ゆうちょ銀行を含む。)窓口で振り込むこと。 ATM(現金自動預払機)は使用不可。 ②「振込金(兼手数料)受領書」及び「検定料受付証明書」を銀行の窓口から受け取る際には、必ず「受付局日附印」を確認すること。「受付局日附印」が押印されていないと願書は受理できない。 ③「受付局日附印」が押印された「検定料受付証明書」を検定料受付証明書貼付台紙の所定の欄に貼り付けて提出すること。 ④「振込金(兼手数料)受領書」及び「検定料受付証明書」は無くさないよう注意すること。 ※海外在住者は、ネット出願システムにより、クレジットカード等による支払いが可能です(※検定料に加えて事務手数料 500 円がかかります)。希望者は27頁に記載の「海外からの検定料支払方法について」を確認し、申し込んでください。
☐ 研究室別の所定課題等	別記2に示す、研究室ごとに定める課題等を提出すること。また、別記4の「その他受験者への連絡事項」も参照の上、該当する書類の提出や必要事項の追記をすること。

5. 出願期間及び提出先

(1) 出願期間

2023年1月4日(水)から1月10日(火)まで

持参の場合: 受付時間は平日午前9時から午後5時まで。

郵送の場合: 上記期間内に**必着**のこと。海外在住者の場合も必着。**※電子媒体での提出は認められません。**
災害や交通事情等による配達遅延リスクを考慮のうえ発送すること。

(2) 提出先

北海道大学文学事務部教務担当(〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目)

出願書類を郵送する場合には、封筒の表に「大学院入学願書在中」と朱書きし、書留郵便とすること。

申し込みフォームについて

上述の出願書類の提出に加えて、文学院ウェブサイト掲載の「申し込みフォーム」へ入力すること。

申し込みフォームには以下の QR コード又は URL からアクセスする。



(URL <https://forms.gle/GT3e2BZXy2XAcR4T7>)

11月18日(金)までに受付開始とする予定なので、出願期日までに入力すること。申し込みフォームへの入力及び検定料納入後、出願書類を出願期間内(必着)に提出(郵送又は持参)することで出願にかかる手続きが完了する。

Ⅱ 入学試験

6. 入学試験期日及び場所

(1) 試験期日 2023年2月4日(土)

口述試験その他 午前9時00分以降
※2月4日の試験に先立ち、第1次選考(書類選考)を実施する。

(2) 場 所 オンラインで実施

※オンラインでの受験に必要な情報(Zoomのアクセスコード、集合時間等)については受験票送付時に通知する。

受験に先立ち、別記3及び別記4を参照の上、受験に必要な環境等を整えておくこと。

7. 選抜方法

(1) 口述試験その他の結果及び出願書類を総合して合格者を決定する。

第1次選考(書類選考)と第2次選考(オンライン口述試験等)を実施する。

第1次選考: 出願書類による書面審査を実施

第2次選考: 第1次選考通過者に対して、「口述試験その他」を実施

口述試験その他の中で、専門分野に関する内容(専門試験に相当する内容)も問う。

なお、第1次選考を通過した者のみ、第2次選考(オンライン口述試験等)を受験できる。

また、第1次選考を通過できず、第2次選考の対象にならなかった者についても、検定料の払戻しは行わない。

(2) 口述試験その他の出題形式等

人文学専攻

研究室・専門分野	口述試験その他
哲学倫理学	・口述試験 口述試験では、所定の事前課題(別記2)、研究計画書、卒業論文もしくはそれに代わる研究論文についての質疑等を行う。
宗教学インド哲学	・口述試験 口述試験では、専門知識に関わる事項説明問題を課す。また、専門に関わる外国語の文章(主に英語)を読み質問に答えることを求める場合がある(辞書持込み不可)。
日本史学	・口述試験
東洋史学	・口述試験 口述試験では、専門に関わる文献を読み質問に答えることを求める場合がある。
西洋史学	・口述試験 口述試験では、専門分野に関わる外国語の文章を読み質問に答えることを求める場合がある(辞書持込み不可)。
考古学	・口述試験
文化人類学	・口述試験
芸術学	・口述試験 口述試験では、専門知識に関わる問題を課す。また、専門に関わる外国語の文章(主に英語)を読み質問に答えることを求める場合がある。
博物館学	・口述試験 口述試験では、研究計画書に関する試問、及び当該分野(博物館研究、文化財研究)に関する基礎知識を確認する試問を行う。
欧米文学	・口述試験
日本古典文化論	・口述試験 口述試験では、卒業論文もしくはそれに代わる研究論文・研究計画書・崩し字読解等に関する試問を行う。
中国文化論	・口述試験 ・口述試験その他において、筆記による試験(辞書持込み可)を実施する。筆記形式の試験では文献読解・語句説明を課す。
映像・現代文化論	・口述試験 口述試験では、課題レポートの内容についても問う。
言語科学	・口述試験 口述試験では、言語学、国語学、日本語学、英語学、ドイツ語学・ゲルマン語学、フランス語学・ロマンス語学、ロシア語学・スラブ語学の中でいずれかの知識を問う。

社会人特別入試

スラブ・ユーラシア学	・口述試験 ・口述試験その他において、筆記による試験を実施する。筆記形式の試験では、英語2題、ロシア語2題のうちから任意の2題を選択し、日本語訳を行う。辞書持込み可(電子辞書は不可)。 ※出願書類として卒業論文を提出しない者は、研究計画書に参考文献などを掲載し、自身の研究したいことについてより詳細な説明を行うこと。
アイヌ・先住民学	・口述試験

人間科学専攻

研究室・専門分野	口述試験その他
心理学	・口述試験 ・口述試験その他において、筆記による試験を実施する。筆記形式の試験では英文読解、英作文、心理学の専門内容を問う試験を行う。
行動科学	・口述試験 口述試験では、卒業論文(もしくはそれに代わる最近の研究成果)と研究計画の内容、当該分野の専門知識、英語コミュニケーション能力、などを問う。
社会学	・口述試験 口述試験では、社会学の基礎知識に関して理解の度合いを確認する質問を行う。英語での質疑応答を含むことがある。
地域科学	・口述試験 口述試験では、人文地理学、社会生態学、地域社会学の専門知識を問う。

8. 合格者発表

2023年2月20日(月) 午後4時

合格者受験番号について文学院公用掲示板への掲示及び文学院ウェブサイトへの掲載を行うとともに、受験者宛、合否を郵送(海外在住者についてはメール)により通知する。電話による問い合わせには一切応じない。

なお、通知の到着は、5～6日後(宛先が日本国内の場合)になることがある。

9. 教育方法の特例(大学院設置基準第14条による特例)について

本学院では、通常、平日の1講時～5講時(8:45～18:00)に授業を行うことになっているが、有職者である学生に限り、その所属先における勤務条件、通学に要する時間等について、教員が考慮した上で、通常の授業時間帯以外の特定の時間又は時期に授業を設けることが許されている。この特例による授業の実施を希望する者は、合格発表後、指導を希望する教員に申し出るとともに、今後の研究・学習計画等について指導を受けること。

10. 新型コロナウイルス感染症の影響による入試の変更等について

- (1) 入学試験を変更又は中止することがある。変更等を行う場合は、11月18日(金)までに決定し、本学院ウェブサイトで周知する予定である。ただし、新型コロナウイルス感染症の急速な感染拡大等により、上述の期日以降に変更を決定する場合がある。
- (2) 日本政府による入国制限等により、希望する時期に受験できなくなる可能性があるため、海外在住者は特に留意すること。
- (3) 新型コロナウイルス感染症の影響で郵便に遅れが生じる地域がある。出願期間内に願書(原本)が届かなかった場合、受け付けることは出来ないため、早めに願書等を含む出願書類を取り寄せるとともに証明書類を揃え、期日までに届くように準備を進めること(特に海外在住者は留意すること)。

一般入試, 外国人留学生特別入試, 社会人特別入試共通

・各研究室における専門分野

人文学専攻

講 座	研 究 室	教 員	専門分野
哲学宗教学	哲学倫理学	教授 藏田 伸雄 教授 田口 茂 教授 村松 正隆 准教授 近藤 智彦 准教授 佐野 勝彦 准教授 宮園 健吾 特任准教授 ヤコプス・ケリン* 助教 野村 恭史	哲学・哲学史, 倫理学・応用倫理学, 論理学, 社会思想史
	宗教学インド哲学	教授 佐々木 啓 教授 宮嶋 俊一 准教授 林寺 正俊 准教授 眞鍋 智裕	宗教学, インド哲学, 仏教学
歴史学	日本史学	教授 権 錫永 教授 白木沢 旭児 教授 谷本 晃久 教授 橋本 雄 准教授 川口 暁弘 助教 高鳥 廉	日本史学
	東洋史学	教授 佐藤 健太郎 教授 吉開 将人 准教授 梅村 尚樹	東洋史学
	西洋史学	教授 砂田 徹 教授 長谷川 貴彦 教授 松嵜 明男 教授 村田 勝幸 教授 山本 文彦	西洋史学
	考古学	教授 江田 真毅 教授 小杉 康 教授 高瀬 克範 准教授 國木田 大 助教 高倉 純 助教 中澤 祐一	考古学, 物質文化論, 植物考古学, 動物考古学, 実験考古学, 文化財科学
文化多様性論	文化人類学	教授 小田 博志 准教授 コーカー・ケイトリン・クリスティーン 准教授 山口 未花子	文化人類学
	芸術学	教授 谷古宇 尚 准教授 浅沼 敬子 准教授 今村 信隆	美学・芸術学, 西洋美術史, 現代美術史
	博物館学	教授 佐々木 亨 准教授 鈴木 幸人 准教授 久井 貴世	博物館学(博物館人類学を含む), 文化財学, 博物誌, 日本美術史

*で示す教員は指導教員になることができません。

人文学専攻

講 座	研 究 室	教 員	専門分野
表現文化論	欧米文学	教授 瀬名波 栄潤 教授 竹内 修一 教授 竹内 康浩 教授 戸田 聡 助教 宮下 弥生	英米・英語圏文学, フランス文学, 西洋古典文学
	日本古典文化論	教授 金沢 英之 教授 後藤 康文 准教授 野本 東生	日本古典文学, 日本古典文化
	中国文化論	教授 近藤 浩之 教授 弐 和順 准教授 田村 容子	中国思想, 中国語学, 中国文学
	映像・現代文化論	教授 阿部 嘉昭 教授 応 雄 教授 押野 武志 教授 中村 三春 教授 水溜 真由美 准教授 小川 佐和子	映像論, 表象文化論, 日本文学(近代・現代), 日本文化(近代・現代), 日本思想(近代・現代)
言語科学	言語科学	教授 李 連珠 教授 加藤 重広 教授 佐藤 知己 特任教授 清水 誠 教授 野村 益寛 教授 藤田 健 准教授 菅井 健太 准教授 薦 清行	言語学, 国語学, 日本語学, 英語学, ドイツ語学・ゲルマン語学, フランス語学・ロマンス語学, ロシア語学・スラブ語学
スラブ・ユーラシア学	スラブ・ユーラシア学	教授 岩下 明裕 教授 宇山 智彦 教授 ウルフ・デイビッド 教授 仙石 学 教授 田畑 伸一郎 教授 長縄 宣博 教授 野町 素己 准教授 青島 陽子 准教授 安達 大輔	ロシアの社会と文化, 中央ユーラシアの社会と文化, 東欧の社会と文化
アイヌ・先住民学	アイヌ・先住民学	教授 加藤 博文 准教授 石原 真衣 准教授 落合 研一 准教授 北原 次郎太 准教授 丹菊 逸治 准教授 蓑島 栄紀 准教授 山崎 幸治	アイヌ・先住民に関する文化人類学, 言語学, 考古学, 歴史学, 博物館学, 文化遺産学

人間科学専攻

講 座	研 究 室	教 員	専門分野
心理学	心理学	教授 安達 真由美 教授 川端 康弘 教授 河原 純一郎 准教授 小川 健二 准教授 金子 沙永 助教 森本 琢	認知心理学, 認知科学, 実験心理学, 音楽心理学, 視覚科学, 認知神経科学, 認知行動科学
行動科学	行動科学	教授 大沼 進 教授 高橋 伸幸 教授 竹澤 正哲 教授 結城 雅樹 准教授 高橋 泰城 准教授 瀧本 彩加 助教 中島 晃	行動科学(社会心理学, 文化心理学, 環境心理学, 進化心理学, 行動経済学, 比較認知科学など)
社会学	社会学	教授 櫻井 義秀 教授 平澤 和司 准教授 伍 嘉誠 准教授 樋口 麻里 助教 清水 香基	社会学
地域科学	地域科学	教授 池田 透 教授 笹岡 正俊 教授 橋本 雄一 教授 宮内 泰介 准教授 高橋 昂輝 准教授 林 琢也 助教 立澤 史郎	人文地理学, 地域社会学, 社会生態学

※本表は、2023年4月1日に文学院に在籍する予定の教員の一覧であり、記載内容は変更となる場合があります。

・出願上の注意

- (1) 出願書類及びその記載内容に虚偽のあることが判明した場合は、合格(入学後にあっては入学)を取り消す。
- (2) 入学願書の履歴事項欄には、高等学校卒業以降の履歴を全て記入すること。外国人留学生は、初等教育(小学校)から最終学歴まで全ての入学、卒業に関する情報を記入すること。履歴中に虚偽のあることが判明した場合は、合格(入学後にあっては入学)を取り消す。
- (3) 病気・負傷や障害等により、受験及び修学に際して特別な配慮を必要とする者は、所定の期日までに文学事務部教務担当に申し出ること。

〈所定の期日〉前期試験(9月)受験者:2022年6月17日(金)、後期試験(2月)受験者:2022年11月11日(金)

・出願書類の請求

募集要項(出願書類)は、本学院ウェブサイトから請求すること。

北海道大学大学院文学院 <https://www.let.hokudai.ac.jp/>

・過去の試験問題

本学院ウェブサイトで公開している。

北海道大学大学院文学院 <https://www.let.hokudai.ac.jp/>

なお、翌年度5月に合否判定基準及び入学試験の出題意図、並びに志願者数、受験者数、合格者数及び入学者数等の情報を公開する。

・入学手続

- (1) 入学手続期間 3月中旬(入学手続の詳細は、2月下旬に通知する。)
- (2) 入学料 282,000円
- (3) 授業料 前期分267,900円(年額535,800円)
(注1) 上記の納付金は予定額であり、今後改定される場合がある。
(注2) 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用される。

・長期履修制度について

この制度は、主として時間的制約の多い社会人の修学に配慮したもので、標準の修業年限より長い期間をかけて計画的な履修を行うためのものである。

これに申請できるのは、官公庁・企業等に在職している者(給与の支給を受け、職務を免除されている者を除く。)、自ら事業を行っている者等フルタイムの有職者、育児及び親族の介護等にたずさわっている者、又はそれらに準じる仕事や負担によって修学に重大な影響がある者に限定される。

希望者は2023年1月6日(金)から2023年1月12日(木)に申請を行い、本学院における審査を経て、2月下旬に適用が決定される。入学時に長期履修が認められた者の授業料は、概ね標準修業年限に納付すべき授業料の額(年額×2年)を長期履修が認められた年数で除した額を年額として決定する。

長期履修申請書の郵送を希望する場合は、返信用封筒(角形2号)に120円分の切手を貼付け、住所、氏名、郵便番号を記載のうえ、封筒のおもてに「長期履修申請書(新入生用)請求」と明記して請求すること。

【長期履修申請書 請求先】

北海道大学文学事務部教務担当
〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目

以下 URL 及び右の QR コードからの取得も可能

https://drive.google.com/drive/folders/1LBHiCI-A9P6hhq47jHWFnygs_mf6hgPi?usp=sharing



・個人情報の取り扱いについて

- (1) 本学が保有する個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」を遵守するとともに、「国立大学法人北海道大学個人情報管理規程」に基づき、保護に万全を期している。
- (2) 出願書類に記載されている氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜、②合格者発表、③入学手続、④入学者選抜方法等における調査・研究、及び⑤これらに付随する業務を行うために利用する。
- (3) 合格者のみ、(2)の個人情報を入学後の①教務関係(学籍、修学指導等)、②学生支援関係(健康管理、奨学金

申請等), ③授業料等に関する業務を行うために利用する。

(4) (3)の個人情報のうち, 氏名及び住所に限って, 北大フロンティア基金及び本学関連団体である北海道大学体育会からの連絡を行うために利用する場合がある。

・入学試験に関する問い合わせ先

北海道大学文学事務部教務担当

Tel (011) 706-3005, 3004 (月～金:8:30～17:00／祝日を除く。)

Email: lkyom@let.hokudai.ac.jp

※問い合わせは, やむを得ない場合を除き志願者本人が行うこと。

・入学試験成績等の開示について

本学院では, 本人からの請求に基づき, 合格発表後の一定期間, 受験者からの求めに応じ試験成績等について開示する。

開示内容・方法等については, 受験票及び受験上の注意事項等送付時に通知する。

・海外からの検定料支払方法について

海外からクレジットカード等による検定料の納入を希望する者は, 事前に以下の QR コード又は URL にアクセスし, 「検定料の海外支払い申し込みフォーム」へ入力すること。後日, 必要な手続きについて案内する。

検定料の海外支払い申し込みフォーム

(URL <https://forms.gle/jyTBtyG51gepPuyKA>)



・その他

試験実施に関する変更や追加の連絡事項等がある場合は本学院ウェブサイトに掲載するため, 出願前に確認すること。

別記1 出願資格審査

1. 一般入試, 外国人留学生特別入試

「2. 出願資格」の(9)…いわゆる飛び入学…により出願しようとする場合。

(1) 提出書類

- ①受験資格審査願(本学院所定の用紙, 申し出により交付する。)
- ②入学願書
- ③成績証明書
※転学している場合は, 転学前の成績証明書も併せて提出する。
- ④出身大学の学部長及び指導教員の推薦書。本学文学部学生は, 指導教員の推薦書
※中途退学者も出身大学から推薦書を発行してもらうこと。
- ⑤主要研究論文
※卒業論文等を作成していない場合でも, 新規に作成し提出すること。
- ⑥返信用封筒(出願資格通知用)
※封筒(長形3号)に申請者の郵便番号・住所・氏名を明記し, 344円分の切手を貼付したもの。

(2) 提出期限

2022年11月11日(金)

(3) 審査基準

下記のア, イの両方の条件を満たす者に, 出願資格を与える。

ア 授業科目の成績

在籍大学の成績評価(転学をしている者は転学前の成績を含む。)を下記の式により計算し, その値が2.90を超える者

$$\text{評価の平均値} = \frac{\text{優(A)の単位数} \times 3 + \text{良(B)の単位数} \times 2 + \text{可(C)の単位数} \times 1}{\text{総修得単位数}}$$

注1 2年次修了時点で82単位以上修得していることを条件とする。

注2 評価が「認定」となっているものは, 修得単位として計上しない。

イ 主要研究論文の評価

志望する研究室を担当する本学院専任教員が, 本学文学部4年次学生が提出する卒業論文に準じて評価し, 「優」の評価に相当するもの。

2. 一般入試, 外国人留学生特別入試, 社会人特別入試

「2. 出願資格」の(10)…大学卒業資格を有していない者に対する個別の資格審査…により出願しようとする場合。

(1) 提出書類

- ①受験資格審査願(本学院所定の用紙, 申し出により交付する。)
- ②入学願書
- ③最終学校の卒業証明書, 成績証明書
- ④最終学校卒業後の学習歴, 実務経験等について, A4判を用い2,000字以内で述べたもの。
- ⑤最終学校卒業後の学習歴, 実務経験等を証明できるもの。
(例:教育機関の在学証明書, 成績証明書。研究機関の在職証明書又はこれに代わるもの。出版物, 講演会発表要旨等)
- ⑥返信用封筒(出願資格通知用)
※封筒(長形3号)に申請者の郵便番号・住所・氏名を明記し, 344円分の切手を貼付したもの。

(2) 提出期限

【前期試験】2022年6月17日(金)まで

【後期試験】2022年11月11日(金)まで

(3) 審査基準

次のア, イの両方の条件を満たす者に, 出願資格を与える。

ア 客観的に証明できる学習歴, 実務経験等を有し, それらの年数と本人の受けた学校教育の年数を合算し, 16年以上となること。

イ 学習歴, 実務経験等において, 志願する研究室の学習・研究内容と関連のある実績があること。

別記2 出願書類【研究室別の所定課題等】 ※後期試験の出願者のみ提出すること

人文学専攻

研 究 室	提 出 物
哲学倫理学	卒業論文もしくはそれに代わる研究論文。また、出願希望者には事前課題（論述形式問題、事項説明問題、外国語文献読解）を送る。外国語文献読解で選択する外国語を英・独・仏の中から選択し、原則として12月23日までに研究室の近藤智彦准教授に連絡すること。作成した課題については、出願書類と併せて出願期間内に提出すること。返信がないときは、「入学試験に関する問い合わせ先」に記載の教務担当のメールアドレスに問い合わせること。 (連絡先)kondo@let.hokudai.ac.jp
宗教学インド哲学	卒業論文を提出する場合でも、それに加えて修学したい分野に関わる4,000字程度のレポートを提出すること。
日本史学	なし
東洋史学	なし
西洋史学	なし
考古学	なし
文化人類学	卒業論文を提出する場合でも、それに加えて文化人類学に関わる2,000字程度のレポートを作成し提出すること。
芸術学	芸術学に関する卒業論文。卒業論文がない場合は、芸術学に関するテーマについて論じた4,000字程度のレポートを提出すること。
博物館学	なし
欧米文学	なし
日本古典文化論	なし
中国文化論	なし
映像・現代文化論	以下の課題に基づくレポートを提出すること。研究計画書の内容との重複は、できるだけ避けること。注と参考文献を付け、分量は、4,000字程度とする。 課題:「映画と鉄道」または「日本近代文学と鉄道」について、具体的な作品・場面を挙げながら論じなさい。
言語科学	なし
スラブ・ユーラシア学	なし
アイヌ・先住民学	なし

人間科学専攻

研 究 室	提 出 物
心理学	心理学の専門内容を問う試験の一部免除を希望する者は、日本心理学諸学会連合認定心理学検定1級または特1級の合格証の写しを提出すること。(希望者のみ)
行動科学	卒業論文がない場合は、それに代わる最近の研究成果の写し(論文・レポートなど)を提出すること。
社会学	なし
地域科学	なし

別記3 オンラインで受験する方へ

オンラインで受験するためには、指定された受験環境を、受験者自ら揃える必要があります。

以下を熟読し、試験に備えてください。

なお、口述試験その他の中で、筆記による試験を実施する研究室の受験者は、別記4に記載のとおり、事前にオンライン試験受験のための環境確認が行われることにもご留意ください。

〈注意事項〉

受験者の責任による機器不調で試験が継続できない場合、欠席として扱われます。

自室などの静謐な環境で受験してください。試験時間中に受験者以外の第三者が受験場所にいたり、入室したりした場合は、試験を中止します。不正行為が疑われる場合は、試験の続行を認めず失格とし、不合格となります。

トイレ等の理由を問わず、試験時間中に席を離れた場合には、その時点で試験を終了します。

試験時間内に参照或使用を許可されていない資料やデバイスを使用した場合は、失格とし、不合格となります。

試験問題は試験時間内の閲覧のみ許可します。試験終了後も保持すること及び他者への公開は固く禁じます。指示違反が確認された場合は、事後でも合格を取り消すことがあります。(試験問題の提示がある場合)

筆記による試験中に、他の受験者からの質問や監督教員からの指示などがあった場合や、日常的な生活騒音等(他の受験者や監督教員の動作音、周囲の物音など)が発生した場合も、特段の配慮は行いません。

〈オンライン受験に必要な環境〉

下記の物を試験当日まで(受験のための環境確認を行う研究室は確認時まで)にすべて用意すること。用意できない場合は受験することができません。

なお、別記4「2023 年2月試験:研究室別試験案内」で別途指示がある場合は、それに従ってください。特段指示が無い場合は、下記受験環境を用意してください。

※試験当日に不備があった場合、不合格となります。

- ①個室(試験時間中に第三者が入ってこない静謐な環境)
- ②カメラ付きデバイス1台(パソコン推奨)
- ③マイク、スピーカー(ヘッドフォン可)

〈実施方法〉

試験はインターネットを介した Web ミーティング(Zoom)で実施しますので、使用するデバイスに Zoom のアプリをインストールしておいてください(zoom.us から無料でインストールできます)。海外在住の方で、Zoom アプリを使用できないことを理由として、Webex 等の使用を希望する場合には、出願時に必ず申出書(任意様式)を作成し、願書と一緒に提出してください。出願期間を過ぎてからの申し出はできません。

安定したインターネット接続環境が必要となります。インターネット接続は、無線(Wi-Fi)よりも有線の方が安定し、スマホでは電話回線(SIM 接続)より無線(Wi-Fi)のほうが安定しているとされますが、事前に、個々人の環境で確認しておいてください。

「口述試験その他」のなかで、専門知識を問う問題・外国語能力を問う問題・資料や文献の読解力を測る課題などを出題する研究室があります。問われる内容や出題方法は研究室によって異なります。

接続の不具合があった際など、緊急時に願書及び申し込みフォームに記入した電話番号及びメールアドレスに連絡することがあります。

その他試験実施に関するお知らせは受験票送付時に送ります。

別記4 2023年2月試験：研究室別試験案内

人文学専攻

研 究 室	受験者が第2次選考試験時に用意するもの	その他受験者への連絡事項 ※提出書類は、出願書類と併せて出願期間に提出すること。
哲学倫理学	別記2に示す提出書類	なし
宗教学インド哲学	なし	なし
日本史学	なし	なし
東洋史学	研究で用いている漢和辞典、外国語辞典等	なし
西洋史学	なし	なし
考古学	なし	なし
文化人類学	なし	なし
芸術学	なし	なし
博物館学	なし	なし
欧米文学	なし	検定試験などによる外国語(志願者の母語でない言語)の能力を証明するもの(日本語検定、英検、TOEIC や TOEFL、仏検など)があれば提出してもよい。
日本古典文化論	なし	なし
中国文化論	パソコン(筆記による試験と口述試験に使うため)及びスマートフォン(筆記による試験中の試験監督用に手元を写し出すため、また緊急連絡のため)。筆記による試験の際は辞書使用可。	・機器やオンライン接続の確認などのため、試験の1週間前までに大学から受験者へ連絡する。 ・卒業論文がない場合は、研究計画書に自身の研究したいことについて詳細な説明を行うこと。
映像・現代文化論	別記2に示す提出書類	出願する入試区分に応じて、以下のものがある場合は必ず提出すること。 (一般)外国語の外部試験の成績証明書 (外国人留学生)日本語の外部試験の成績証明書
言語科学	なし	(1)口述試験において、言語学、国語学、日本語学、英語学、ドイツ語学・ゲルマン語学、フランス語学・ロマンス語学、ロシア語学・スラブ語学の中でどの分野を選択するか、(2)入学後、どの教員を指導教員として希望するか、の2点を研究計画書の末尾に明記すること。
スラブ・ユーラシア学	パソコン(筆記による試験と口述試験に使うため)及びスマートフォン(筆記による試験中の試験監督用に手元を写し出すため、また緊急連絡のため)。	・機器やオンライン接続の確認などのため、試験の1週間前までに大学から受験者へ連絡する。 ・出願書類として卒業論文を提出しない者は、研究計画書に参考文献などを掲載すること。
アイヌ・先住民学	別記2に示す提出書類	なし

人間科学専攻

研 究 室	受験者が第2次選考試験時に用意するもの	その他受験者への連絡事項 ※提出書類は、出願書類と併せて出願期間に提出すること。
心理学	パソコン(筆記による試験と口述試験に使うため)及びスマートフォン(筆記による試験中の試験監督用に手元を写し出すため、また緊急連絡のため)。	機器やオンライン接続の確認などのため、試験の1週間前まで大学から受験者へ連絡する。
行動科学	提出した研究計画書を説明する際に必要な資料	なし
社会学	なし	なし
地域科学	提出した研究計画書の説明に必要な資料	地域科学分野に関する成果物があれば提出すること。

北海道大学大学院文学院

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 7 丁目
011-706-3005, 3004 (教務担当)

<https://www.let.hokudai.ac.jp/>